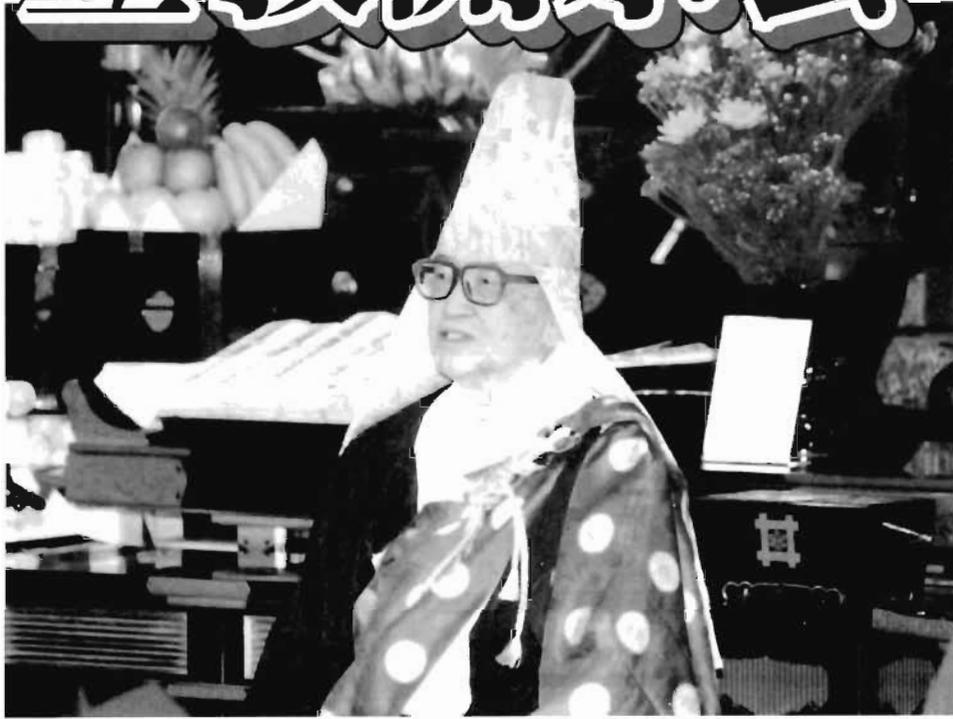


第758回 立教開宗会



清澄

平成22年5・6月
合併号

発行所

〒299-5505 千葉県鴨川市
清澄322-1

© 清澄寺
TEL 04(7094)0525番
FAX 04(7094)0527番
振替 00140-5-55501

印刷所

天津(南)ブラザー印刷

送料共1部100円

お知らせ

7月

21日 8:00-15:00

22日 8:00-12:00

妙見宮大祭

27日 19:00

信行会(唱題行)

8月

1日 11:00

大施餓鬼会法要

10日 1:00

盂蘭盆会法要

27日 19:00

信行会(唱題行)

第七五八回

立教開宗会法要

去る四月二十七日、午後二時より、立教開宗慶讃音楽大法要を、当山住職・日蓮宗管長酒井日慈猊下大導師に、副導師・中條別当、並びに地元宗務所長、両親閣妙蓮寺住職・上村貞雄僧正。

来賓寺院に、渡辺宗務総長ご名代、塩崎望巳教務部長、大本山誕生寺石川日命猊下、本山妙覚寺堀水日行猊下、本山鏡忍寺原日透猊下、日本山妙法寺大僧伽の各聖、他に檀信徒、和讃会の皆さん合わせて二百余名の御参列をいただきました。千葉県内有志による和讃奉納から始まった法要は、大変荘厳な音楽法要でありました。

別當のご挨拶



(3ページへ続く)

中條別當ご退任

退任のご挨拶

合掌

初夏の候、皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、去る五月九日、大本山清澄寺住職・日蓮宗管長酒井日慈猊下が、任期満了につき管長職を下りられました。宗制に則り、小生も六月十日付けて清澄寺別當職を退く旨辞表を提出いたしました。

平成十九年九月十九日、酒井猊下より別當職を拝命し二年九ヶ月が経ちました。

この間、全国から温かいお力添えを戴き、執事長はじめ山務員の力強い支援を受け、大過なく、靈跡の護持に務めさせて戴くことが出来ました。

在任中賜りました。ご厚誼、ご高配に心から深く御礼申し上げます。当山は、平成三十四年に『旭が森日蓮聖人銅像』建立百年の記念すべき時をお迎えます。

全国のご寺院ご信徒の皆様には、更なるご厚情をお寄せ下さいませようようお願い申し上げます、略儀ながら当書面をもって退任のご挨拶といたします。

三唱

速報

新別當職に市川市浄光寺住職

一宮 將泰 僧正

※詳細は次号にてお知らせさせていただきます。

訃報

第八代別當小林日芳猊下御遷化

当山の第八代別當でありました、茨城県笠間の真浄寺院首、

大法院日芳上人

は、平成二十二年四月十六日、世寿九十五歳をもって御遷化(亡くなる事)なされました。

昭和六十三年九月八日、時の岩間管長猊下より御下命を受け就任。

立教開宗七百五十年に向けての事業推進を諮る。

在山中は境内整備や文化財修復等に力を注がれました。非常に筆忠実で温厚な猊下であり、多くのご信者さんから親しまれておりました。境内の落ち葉清掃を自ら進んで実践なさるなど、給仕の基本を山務員は教えられました。

怪我のため惜しまれて、平成五年十一月に退任なされました。

退任後は御自坊笠間市内の真浄寺院首となり静養なされておりました。

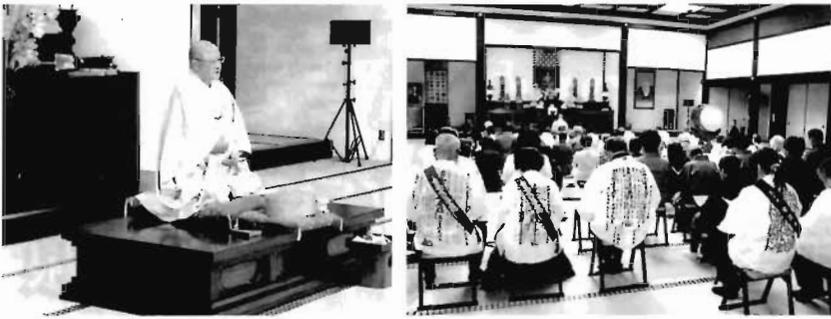
本葬儀が、当山開宗会の当日であり、中條別當は、事前に笠間入りにて御回向申し上げ、開宗会法要後のご挨拶で猊下の徳を偲び(表紙右下写真) 御宝前に御奉告させていただきました。



(清澄寺別當職在任中ありし日の猊下)

唱題行

夜には求道同願会・桐谷
僧正にお導師をいただき、
唱題行を参籠の皆様と近隣
の檀信徒参列のもと共に行
じました。



暁天法要

二十八日早朝は、あいに
くの風と雨であり、旭が森
暁天法要はカップパを着込み
唱題行脚、塩崎教務部長導
師に行われました。



大変な雨でありましたが、
雨のために御聖日の行事を
中止と考える人はいなく、
皆さんずぶ濡れになって旭
が森でお題目をお唱えいた
しました。

清澄稲荷鳥居修復

清澄稲荷堂と鳥居は立教
開宗七五〇年に三浦市延寿
寺大森常隆上人が檀信徒に
お声をかけ新築を致しまし
た。



この度、清澄稲荷の鳥居
が朽ちてしまい、山務員の
大森主事自坊・延寿寺黒辺
稲荷講のみなさまの協力を
得て解体修復。
足場の悪い狭い場所での
作業で、大変ご苦労いただ
きました。

お陰様で綺麗な鳥居が完成
いたしました。



= 本年度 第1回 =
僧道林
= 6月5日~9日 =

今回の僧道林は北海道一
妙寺住職・池田光順師が主
任で、林生が三十三名でし
た。

林長である中條別当導師
で開林式が執り行われまし
た。

皆さん緊張した面持ちで
合掌しておりました。

講義が始まり、しばらく
すると大きな声での読経練
習、いつになく大きな声が
道場に響き渡っておしまし
た。

朝の勤行では声明や焼香
所作を機敏に、全体的にも
まとまりのある林生でした。
これからが楽しみです。

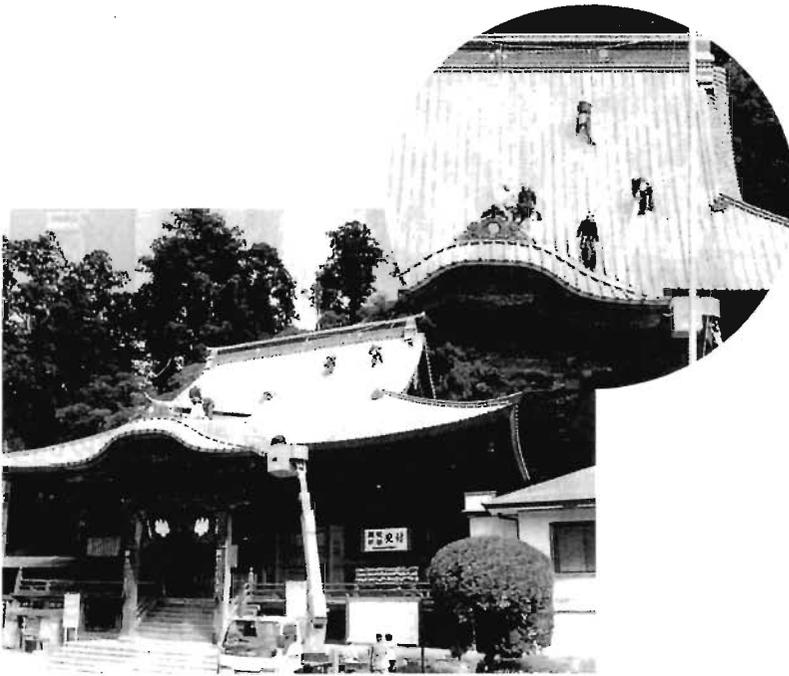


大堂屋根

雨漏り修復

江戸時代中期の建立である摩尼殿(虚空蔵菩薩奉安)が数カ所大雨になると雨漏りがおこり畳にバケツを敷き防いでおりました。この

度屋根屋さんに登っていただき応急処置のコーキングを施行してもらいました。その後は雨漏りが今のところ見られません。



本年も希心会様

▲登山修行▼

本年も例年同様、四月と五月は希心会の信者さん達が連日登山修行で賑わっておりました。

今年の修行は四月十二日から五月三十日までで、大勢の修行者をご登山されました。

この希心会の皆さんは、お昼過ぎに中腹のバイパス

上から行列を組み、御旗を先頭に大聖人の歩まれた旧道を中心に徒歩でお題目をお唱えしながらご登山されます。

夕刻、清澄寺へ到着されるやすぐに修行に入り夜遅くまで、更には早朝暗いうちから旭が森にて修行に入り、その後、朝勤に参列さ

しました。この日程で各地の支部から数十人、多い地区では数百名でご登山されておりました。

しました。

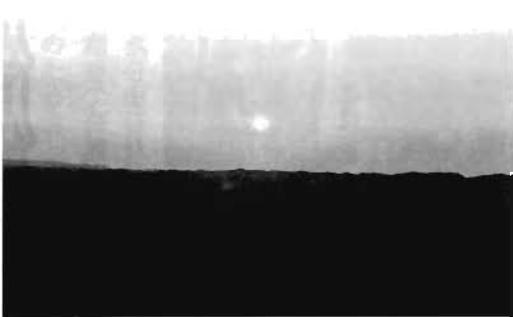
皆さんの強情なる信仰の御心に胸が熱くなりました。この聖日のご来光は見られなかつた訳ですが、本紙にご来光の写真が無いのも忍びないので、最後になります。昨年素晴らしいご来光を掲載させて頂きました。

清澄寺では、皆様の健康と家内安全、そして先祖の菩提ご回向を指針としております。

談話室

今年の開宗会、式典の方は問題無かつたのですが、旭が森の暁天法要は大荒れの天候で、ご来光は到底拝する事が出来ない状況でした。

しかし、そのような天候であるにもかかわらず、法要中止の声は無く、合羽、長靴、太鼓はビニール袋を



被せてのスタイルで行脚し銅像拜し東方唱題を実施致